

明烏第七編

下

^ 13

2909

24

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

門へ 13
號 2909
卷 24

ボ

昭和九年
七月二日
購

明烏あき後のち傳つた寢ね

覺さ繰ぐる言こと卷まき之の六む

江戸 南仙笑楚滿人作

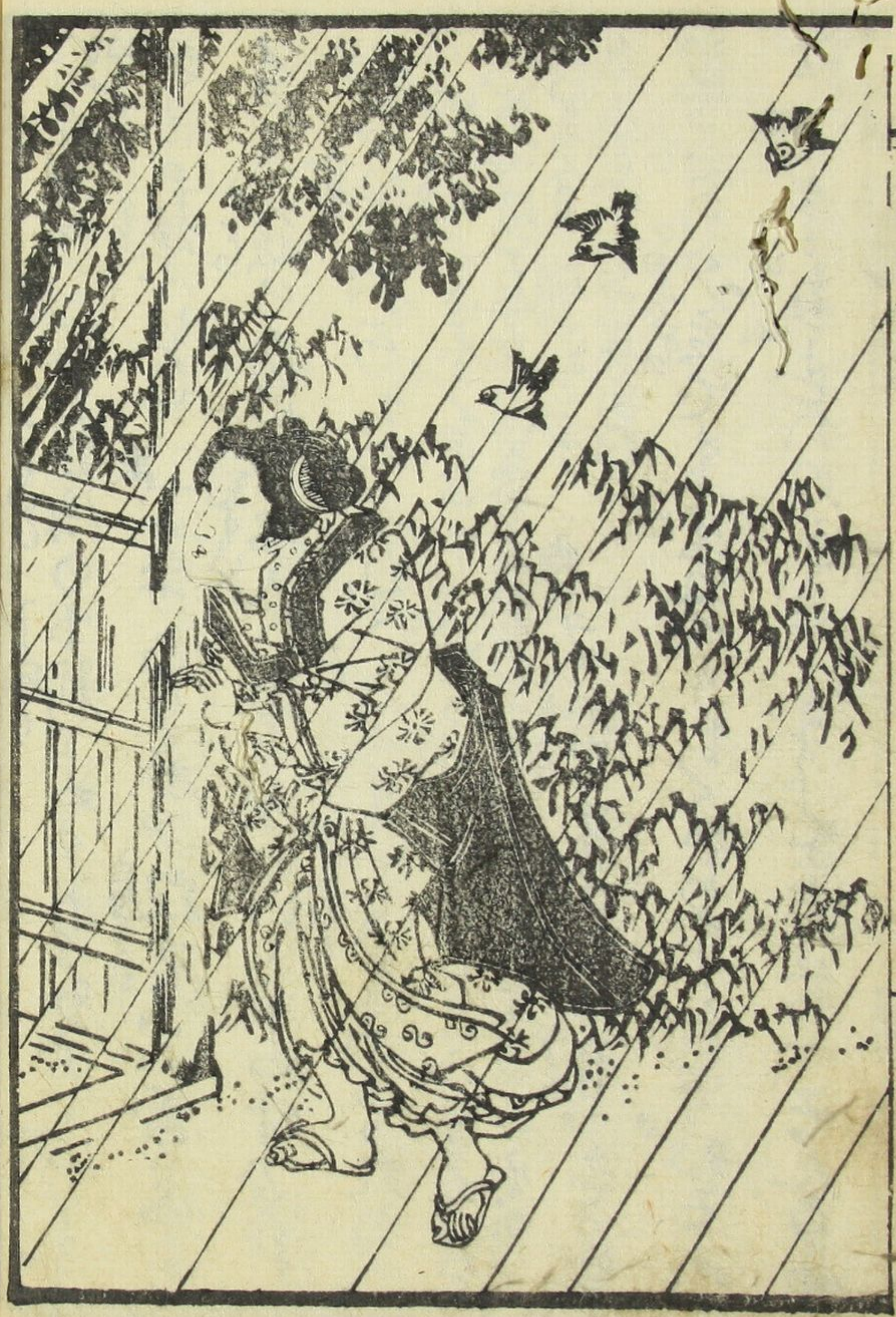
第 四 回

あつひのけのての 四海兄弟と古碁のごとく。お福のお光が厚た積みあぐ
そのい ときころあ 其夜のは外へ けるる夏の夜の早くも東雲迎くる
ふお光実の影のまきりいでくお福を起し 侶供はあま
のく。あが我家へともるひ。男時次郎お里は
あま ともるひ 男時次郎お里は
あま ともるひ 男時次郎お里は

明烏後傳寢
覺繰言卷之六

原不情ある時次郎主掃の妻のまゝに。そのよくも
 誘ひし。まづ母屋へ四五日もどめおきしが本宅
 へもこの氣もつまり又もあや利愈屋が月壽の人の
 目よかろるるもあつた悪くうらんと幸ひあつ岡の
 別荘より道守居の妹のくるまひとてお福を別荘
 へ送り方端お里お光がたうらひあつとらうのことも
 一からぬよめはまうらひぬ。そまの借おた去日屋時
 之及晋我里八ホハ都はあつむき名あつあつ後園

清の智慈院在山令園寺るんと日毎は見物一名所
 回跡とあねとまうらひまうらひの曲端浮瀬の照る
 のと今根はるんはる。毎日だぐおぼるうらうら
 二まうらひ漫あつたはあまの日うづを後のまや京
 越もあつらうらうら。さうらうら大和路へ送ん
 とうは従四人は及そのへ洛陽を發見し名あつあつ
 志賀の志賀はさうからる柁もは行つたまも雲
 月が幾くも袖をまらうらまうら。あつたの志賀の



驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。
 驚きかへたるいんを 目撃家うそとてしらめゆのふ。

降りて死に忍んずるも日ならず生圍はるる。あぞ。時々ホ
 の途方なく。おそろしく。あむらち。ひびく。雷はつら
 とおどろ死侍ある。辻堂の軒下へうけと桑糸く
 耳よるまてあてうづくまる折も。又の電のきら
 めく光り。緒ともよむぐく音はかどろ死て大い旅人
 時々ぬが切り。道くは外一居り。おろく。暫があつてよ
 空際まで夕陽はまたあだ光を系よ。くハ娘く生返り
 心地あむ 晋 ちとろーうろ 時 見えの和尚が

雷の方でござる。一、雷を打つて一、雷を打つて一、

後八年の辰と酉と見ゆる。女は昔の俗のゆへと申す。一、雷を打つて一、雷を打つて一、雷を打つて一、雷を打つて一、雷を打つて一、

今女「おはな」〜おはなは免のおはなは〜今の雷おはな

又「おはな」〜我を〜す〜おはな〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

晋我里八ハハ里「おはな」〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

なく〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

おはなハ高橋のちか〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

ます。江戸でござる。晋「おはな」〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

と見ても。直おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

あゝ〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

ますので。〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

二人よ〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

たよ〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

家考〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

さう〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜おはなは〜

晋「そらやう^{そら}と申^{まを}すまゝに申^{まを}さるゝらふ。大和のうら^{うら}へ
往^ゆきよきよと申^{まを}す。かみ^{かみ}へかみ^{かみ}と申^{まを}す。Sawata^{サワタ}申^{まを}す。
てあ^あらうらその^{その}叙^{あつ}文^{ぶん}と申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。是^せは^ひ申^{まを}す。
だらうら。紫^{あそ}の^のひ^ひち^ちの^のま^まへ^への^の具^ぐ部^ぶら^らび^びて^て
あ^あらうら。世^よに^に申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
てあ^あらうら。世^よに^に申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
おけ^おげ^げの^の申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
ま^まへ^への^の申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。

あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。
あ^あら^らう^うら^ら申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。申^{まを}す。

あ^あら^らう^うら^ら

あ^あら^らう^うら^ら

じまのそとにいとまの伯父
 きんごのあきこころのあは
 りあらん 時一何サ今夜遇
 おけるあや明日は是非
 逢ふころ。せんころの苦勞に
 きりきりころころころ又あそ
 こころころころの伯父の
 行方がきりきりころころ



じまのそとにいとまの伯父
 きんごのあきこころのあは
 りあらん 時一何サ今夜遇
 おけるあや明日は是非
 逢ふころ。せんころの苦勞に
 きりきりころころころ又あそ
 こころころころの伯父の
 行方がきりきりころころ



第 一 回

去る程の時、又彼の運の女が、よるゝにされ。
 一里程の酒を呑み、二里りつて、休む。その後、
 いそいで、又一の酒を呑み、ついで、
 爰へあがらふ。晋、たつこ、今呑ぐ、やうな、
 呑まやう呑む、め、う、ま、う、ま、う、な、
 馬、う、う、ト彼の女、結、も、又、の、酒、の、
 間の、腰、を、ひ、き、案、内、も、う、く、入、る、
 年の、酒、三、十

ち、ろ、と、お、か、し、く、最、あ、う、ま、一、大、男、眼、を、
 彼の女と、う、く、と、白、眼、ゆ、ら、た、彼の女、も、
 ま、う、体、死、る、
 た、う、お、お、か、し、く、ま、う、く、ま、う、く、
 我、里、八、歩、の、向、の、
 御、父、さ、ら、と、
 壺、を、
 び、を、と、放、
 ト、
 彼の男の時

及ぐ維きぬめのもね人先の六巻が女房の
 もあやうなうらぶらぶのさむいものよかればさむいあや
 二巻の目もつたれ合で候せものう合はるる百
 両の世百両のうらぶらぶとゆるしはるる時
 女と富家の息子ととてはるるは女房を合せての
 虎落るまじぶあは変りまじ合はるる人此郎の
 首とさらぬくも合点まぬく下巻法の廻ま
 又行振るお柄よまじつとまの一人の張客はまねき

まつる頼るがめく。六巻おぢの物して送り
 さえとまの体は時々ぬい。何人あやととくあまは。
 是が人はあま上巻の五井村ある。太郎が字太
 郎着まのけま。時々ぬい別離の情をのへを想を
 するは太郎着の時と助よむひ。太郎。王のからす
 あんまのうらぶらぶの最前から振子の表と直
 変るる。一巻。二巻。三巻。四巻。五巻。六巻。七巻。八巻。九巻。十巻。十一巻。十二巻。十三巻。十四巻。十五巻。十六巻。十七巻。十八巻。十九巻。二十巻。二十一巻。二十二巻。二十三巻。二十四巻。二十五巻。二十六巻。二十七巻。二十八巻。二十九巻。三十巻。三十一巻。三十二巻。三十三巻。三十四巻。三十五巻。三十六巻。三十七巻。三十八巻。三十九巻。四十巻。四十一巻。四十二巻。四十三巻。四十四巻。四十五巻。四十六巻。四十七巻。四十八巻。四十九巻。五十巻。五十一巻。五十二巻。五十三巻。五十四巻。五十五巻。五十六巻。五十七巻。五十八巻。五十九巻。六十巻。六十一巻。六十二巻。六十三巻。六十四巻。六十五巻。六十六巻。六十七巻。六十八巻。六十九巻。七十巻。七十一巻。七十二巻。七十三巻。七十四巻。七十五巻。七十六巻。七十七巻。七十八巻。七十九巻。八十巻。八十一巻。八十二巻。八十三巻。八十四巻。八十五巻。八十六巻。八十七巻。八十八巻。八十九巻。九十巻。九十一巻。九十二巻。九十三巻。九十四巻。九十五巻。九十六巻。九十七巻。九十八巻。九十九巻。百巻。

やういふ。回金いふやうに。いふ。西の。まじり。いふ。よ。
己し。一が。家のおと。持と。逸と。く。必。赤。の。まじり。いふ。よ。
思ひ。やういふ。が。愛。ホ。へ。来。き。及。併。の。け。麻。の。皮。よ。ぬ。て。
居。よ。ふ。よ。い。の。ま。の。ま。は。ぬ。こ。し。一。も。使。務。なる。の。用。と。
今。度。ら。の。も。ち。入。登。り。ま。し。こ。に。六。勝。お。や。う。ね。ら。助。
け。と。暇。す。や。つ。し。や。つ。な。は。な。後。を。か。あ。り。分。り。て。や。
り。ま。で。も。そ。の。志。づ。る。ま。ら。な。と。始。終。ハ。美。の。善。が。
飛。ぞ。サ。う。く。何。も。ま。ひ。み。あ。い。の。あ。り。や。い。早。く。往。け。く。
（右の文は、原文の注釈として書かれたと思われる）

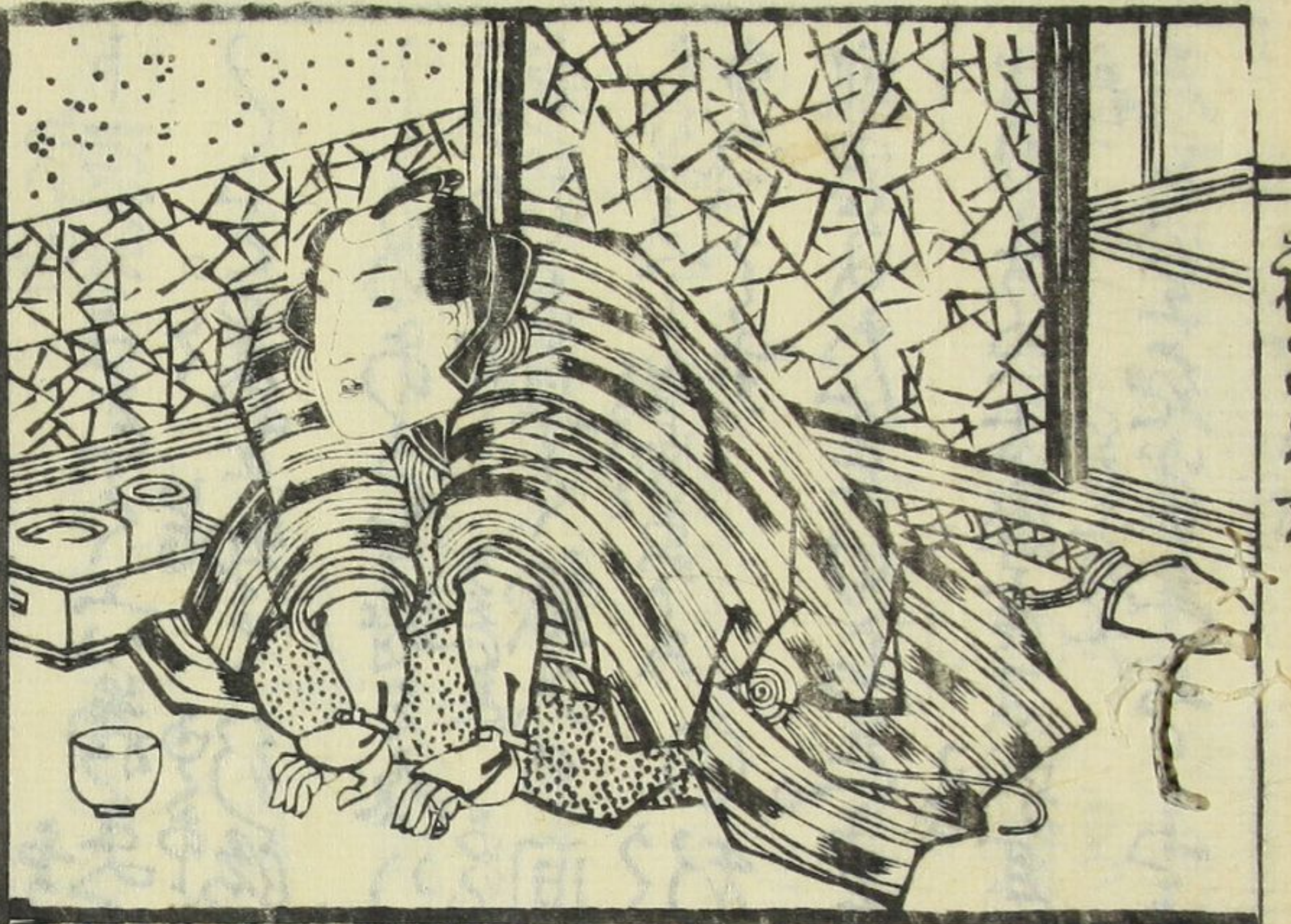
ト。退。出。す。は。ま。し。し。く。六。勝。使。務。つ。ら。ち。ら。う。し。く。し。ま。し。び。
く。と。愛。を。と。し。く。必。赤。の。ま。何。年。か。入。懐。紙。よ。し。の。分。
し。の。あ。り。を。時。々。や。い。指。ひ。あ。げ。得。の。よ。え。で。得。の。
急。次。を。早。く。紙。入。の。間。へ。い。ま。ぬ。の。書。の。の。り。の。ま。の。お。
ら。ん。に。ま。ど。一。看。望。ま。あ。り。み。の。う。ま。の。ま。の。ま。の。あ。い。の。い。
の。う。ま。の。ま。の。ま。の。あ。い。の。い。の。う。ま。の。ま。の。ま。の。あ。い。の。い。
○。初。て。時。々。や。い。の。書。の。の。り。の。ま。の。あ。い。の。い。
よ。の。ま。し。く。太。郎。吉。よ。別。見。に。つ。け。大。和。路。と。い。ふ。の。う。
な。ざ。り。と。な。は。し。ま。し。く。本。曾。海。及。江。戸。の。う。ま。
（右の文は、原文の注釈として書かれたと思われる）



八ノ目

よのやせし直まよらひ
 飲り中〜
 風呂と焼つけ
 さ甘〜
 くら〜
 草刈り
 何ぞいふ
 せんる

十一



九ノ目

おくの〜
 本宅〜
 せんる時〜
 かの中〜

十二

